

国際活動

日本では、地域交通や都市間鉄道など、鉄道事業が全国隅々までサービスされています。日本は島国であり、現在は国際連絡運輸もほとんど行われていないため、鉄道事業は国内に特化した産業であるという印象を受けます。しかしながら、日本の高度な鉄道技術は、海外でも関心の的となっています。また、近年では、ISOやIECなどの国際規格が、鉄道を含む種々の分野の技術を統制しています。ここでは、日本国内だけの問題ではなくなった鉄道の技術開発について、海外戦略を意識した鉄道総研の国際活動をご紹介します。

国際業務室 国際 課長 坂井宏行

2011年5月には、フランス国鉄が主催した第9回会議がフランス・リールで開かれました。鉄道総研は、WCRR発足当時から組織委員として参画しており、毎回、会議の支援を行っています。



WCRRのこれまでの流れ

1992年に開催された「鉄道総研国際講演会」が契機となり、1994年にフランスで初回世界鉄道研究会議(WCRR)が開催され、これ以降、数年ごとに、鉄道にゆかりのある都市で開催されてきました。



Round-table discussions

今回は、鉄道技術開発の今後のあり方を整理することが会議の目的であり、ラウンド・テーブル・ディスカッションに、世界の主要な鉄道の技術開発機関の長とともに、鉄道総研の垂水理事長が出席しました。このほか、内田専務理事が、エネルギー効率、環境配慮、競争力・経営効率の三つの分野を統括し、経営的にもたくましい鉄道事業を目指す技術開発の考え方を紹介しました。

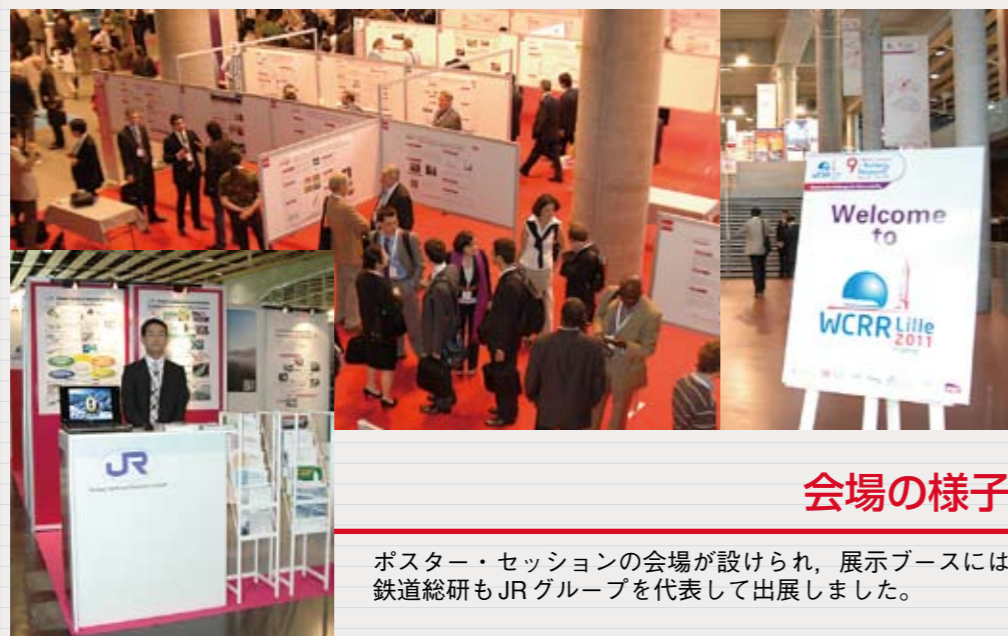
論文賞

今回の会議では、日本からは、鉄道総研・鉄道力学研究部の陳樺主任研究員が発表した「湿潤条件下における車輪とレールの粘着性」に関する論文が論文賞に選ばれました。

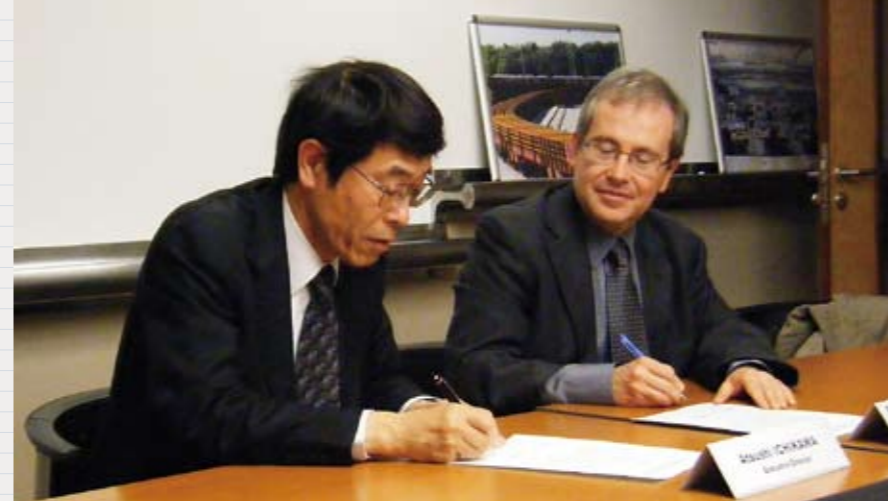


会場の様子

ポスター・セッションの会場が設けられ、展示ブースには鉄道総研もJRグループを代表して出展しました。



RRR 2011.9



共同研究

鉄道総研では、フランス国鉄や中国鉄道科学研究院、韓国鉄道技術研究院、英国鉄道安全規格委員会など、海外の鉄道関係の研究機関とも、共同研究を行っています。



InnoTrans 2010

鉄道技術に関して世界最大のこの見本市は、1996年以降2年ごとに主にドイツのベルリンで開催されています。鉄道総研も2010年9月の開催を含め、2回出展しています。



RRR 2011.9



第7回世界高速鉄道会議
(UIC HIGHSPEED 2010 中国・北京)

初期はEurailspeedという名称で1992年から欧州で開催されており、欧州外の開催となったのは、今回が初めてです。日本からも、国土交通省やJR各社、鉄道関連のメーカー、大学・研究機関など多数の参加がありました。



RRR 2011.9

1992
東京



1994
パリ



1996
コロラドスプリングス



1997
フレンツェ



1999
東京



2001
ケルン



2003
エジンバラ



2006
モントリオール



2008
ソウル



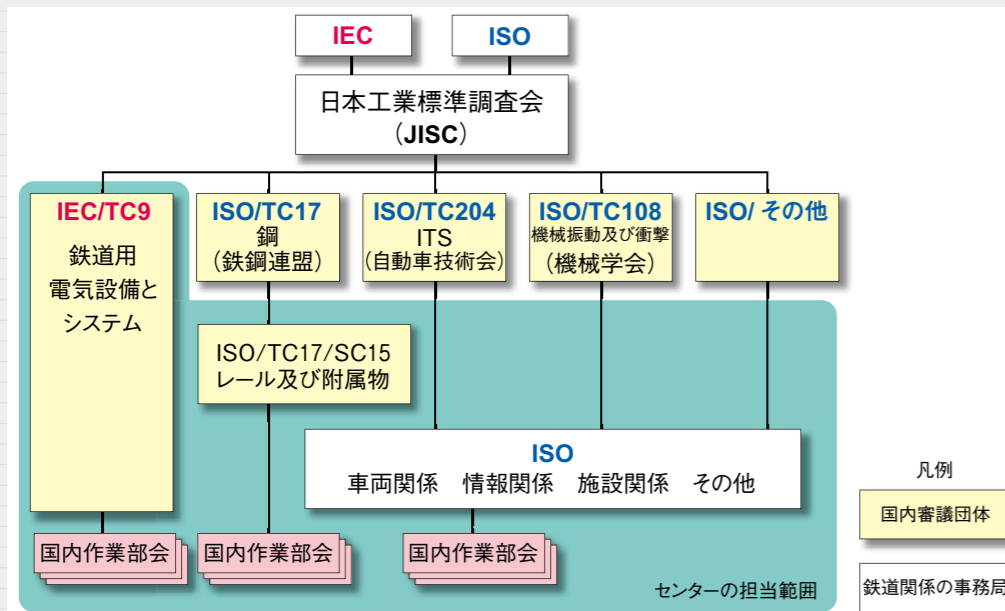
2011
リール



2013
シドニー



鉄道国際規格センターの業務担当範囲



鉄道国際規格センターは、IEC（国際電気標準会議）／TC9（鉄道電気設備とシステム）とISO（国際標準化機構）／TC17（鋼）／SC15（レール及び附属物）の国内審議団体を担当しています。また、他の国内審議団体が担当している鉄道技術に関連するISO規格についても、一元的に情報を収集するとともに有益な規格提案を行うために、鉄道関係の事務局として活動しています。



ウェブ会議

IT技術の進化に伴い、最近ではインターネットを通じて、共通の画面を見ながら音声で議論するウェブ会議も行われています。フェーストゥフェースの会議だけでは時間も限られるため、密な意見交換の機会を得るためにIEC・ISOからも利用が推奨されています。



IEC / TC9年次総会

IEC / TC9年次総会は、毎年1回開催されます。昨年は中国（長沙）で開催されましたが、今年は日本（福岡）で11月に開催されます。

ホームドア

欧州では全面式ホームドアが普及していますが、日本で普及している腰高式ホームドアも安全手段として有効であることを主張し、国際規格（IEC 62267：自動運転旅客輸送システムの安全要求事項）に含めることに成功しました。（写真提供：東京地下鉄株式会社）



テクニカルビジット

各国の技術事情を担当者がよく理解できるように、会議後のイベントとしてテクニカルビジットが行われます。CENELEC（欧州電気標準化委員会）の代表団が来日した時には、鉄道総研で日本の鉄道技術開発の最先端を見て頂きました。

